

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	向日市新庁舎整備事業	階数	地上5F、地下1F
建設地	京都府向日市	構造	RC造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	173 人
地域区分	6地域	年間使用時間	800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年11月18日
敷地面積	6,969 m ²	作成者	田原正寛
建築面積	565 m ²	確認日	2019年11月29日
延床面積	2,992 m ²	確認者	田原正寛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 62%
③上記+②以外の 62%
④上記+ 62%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
<p>Q1 室内環境</p> <p>室内への熱進入に配慮し、最良の日射遮蔽性能及び断熱性能を整えている。空気室環境については建築基準法規制対象外となる建築材料の使用を極力使用しないよう努力した。建物内に新鮮空気を多く導入する為に、居室における</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>各室について可能な限り天井高を確保し、空間的ゆとり確保に注力した。平時および災害時を想定した、電気・通信設備のフレキシビリティ、計画上のリスク(重要機器の浸水など)回避に配慮した。また、配管材料は耐久性の高</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>景観や地域性に配慮し、広場など開放的スペースの確保と緑化計画を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外皮(外壁、屋根)の断熱性能を高めることで、主に空調にかかる消費エネルギー量を低減している。また、LED照明、高効率給湯器、CO₂センサーによる換気制御等を採用することで、建物全体の消費エネルギーを削減している。自然エネルギーの活用としては、太陽光発電+蓄電池</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>内装下地にLGSの使用により部材の再利用可能性向上を取り込んでいる。ライフサイクルにおけるCO₂排出量は参考値の61%まで低減している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>近隣への配慮を行った計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される